

ある商品の価格が国内外を問わず国際商品裁定を通じて等しくなることを一物一価の法則という。一物一価の法則は(1)取引される商品が全く同一であること、(2)貿易可能であること、(3)その市場が完全競争市場であること、(4)取引費用がゼロであること以上の4つの条件がそろって成立する。

一物一価の法則は、これから4条件がそろって、ある財の自国通貨建て価格はその財の外国通貨建て価格に自国通貨で計った外国

「ビッグマックレート」を考える

場が、ある財の自国通貨建て価格を外国通貨建て価格で除したものに等しくなることも示唆している。よって一物一価の法則が成立する限り、ある財が日本では100円、アメリカでは0・83米ドルで販売されているとき外国為替相場は約120・48円/1ドルである。

この一物一価の法則とマクドナルドのハンバーガー、ビッグマックの価格を用いてエコノミスト社が毎年、ビッグマックレート(The Big Mac Index)なるものを公表していることはよく知られている。同社の2016年7月21日の発表によれば、対ドルビッグマックレートは約73・41円、約0・

その原材料である牛肉なども輸出入は規制されていることが多い。このためビッグマックは貿易可能と言えない。さらに、ビッグマックはマクドナルドが独占的に販売していてその市場は完全競争市場ではない。このため(2)、(3)の条件は成立していない。したがってビッグマックレートが為替相場の実勢を捉えたいのは無理もない。

ただし、他の通貨のビッグマックレートはあながち的外れでもなさそうである。たとえばユーロのビッグマックレートは対ドルで約0・76^{ユーロ}、実際の対ドル相場は約0・91^{ユーロ}であり、誤差は約16・5%である。その他の対ドルビッグマックレートは1・14^{豪ドル}、1・19^{カナダドル}、実際の対ドル相場は1・34^{豪ドル}、1・30^{カナダドル}、誤差はそれぞれ約14・9%、約8・5%である。

一物一価の法則と為替相場

通貨1単位の価値、つまり外国為替相場を乗じたものに等しくなることを示唆している。これは外国為替相



名古屋市立大学大学院
経済学研究科教授

岡野 衛士

59^{英鎊}であった。これは、ビッグマックの価格が米国内で5・04米ドル、日本で370円、イギリスでは2・99^{英鎊}だったためである。実際の対ドル相場は106・73円、0・76^{英鎊}で誤差はそれぞれ約31・2%、約22・4%なのでビッグマックレートが実勢を捉えているとは言いがたい。

一物一価の法則が成立するためには先に述べた四つの条件が成立していなければならぬ。ビッグマックが貿易されることはなく、

ある国のマクドナルドの賃金はその国の賃金を代表するものである。ビッグマックレートが実際の為替相場と一致しても不思議なことではない。

おかの えいじ 国際マクロ経済学、国際金融論、金融政策、マクロ経済学。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了。博士(商学)。1970年生まれ。

